

2024（令和6）年度 研究報告

附属幼稚園竹早園舎

1. 今年度の研究

竹早地区附属学校園での幼小中の連携研究では「未来の学校 みんなでつくろうプロジェクト」に取り組んできた。今年度、幼稚園分科会は、教育のDX化部会に所属し、保育記録のデジタル化について研究を進めた。附属学校研究会では、「教員養成における保育記録の活用」をテーマに、小金井園舎の教員や大学教員とともに研究を進めた。

2. 幼小中連携研究 幼稚園部会の取り組み

昨年度取り組んだ保育記録をスポットというシステムを使って書くことを続けてきた。今年度は保育記録の中に、本研究の主体性を捉える視点である3つのことについてハッシュタグをつけることに取り組んできた。例えば「#道具を活用する姿」「#自分の願い」「#集団の願い」「#他者と交流」「#協働的に学ぶ」などである。#があることで、その視点で記録を振り返り、子どもの主体性を支える手立てに活かすことができた。

1月の公開研究会では、5歳児学年の保育を公開した。公開保育には53名、協議会には30名の参加があった。研究について参会者からさまざまな感想や意見を得ることができた。

3. 実践研究

（1）活動研（幼小校内研究会）

2月に4歳児学年の保育を幼稚園教員と小学校教員が参観し、子どもの姿や教師の援助について協議した。文京区立幼稚園や小金井園舎、教職大学院からの参加者もあり、多数の目で子どもの姿を捉えることができた。また、講師として、共立女子大学の田代幸代先生にご指導いただいた。4歳児の遊びやコミュニケーションについてお話いただき、学びの多い時間となった。幼稚園教員と小学校教員と一緒に協議することで、成長の道筋が見えたり、幼児期の特徴や小学校へつながる姿を共有することができた。

4. 成果と課題

保育記録のデジタル化については、扱いなれてきたことで、より子どもの姿や成長を共有するツールとなった。研究の視点でハッシュタグをつけることで、焦点化して振り返りができることも分かった。昨年度課題となっていた、マップ型記録の扱いについても、試行錯誤中である。当日の記録と一緒にPDF化したマップ型記録をアップすることで、記録には書かれない子どもの姿も見られるようになった。今後もより良い方法を考え続けていきたい。

幼小研究では、幼稚園の活動の中心である遊びの中でもう少し視点を絞って、教師の援助や環境の構成について考え、保育の質を高めていきたい。また小学校で行われる自己実現活動とのつながりについても幼小の教員で一緒に考えていきたい。